



翔

2008 February
No.190 百万石蝶談会

石川県輪島市での2007年の蝶の採集・観察記録から

日吉 芳朗

2007年の輪島市では、気象状況の異変のためか、平年に比して発生時期がずれたり個体数がひどく少ないようにみえた種があった。そのうえ、3月25日に北陸地方を襲った能登半島地震は、輪島に震度6強の揺さ振りをかけ、林道が各所で崩壊し、その後の修復がはかどらなかったため、採集・観察が著しく制限された。

輪島測候所の記録によると、1～3月の平均気温は高い、あるいはかなり高く、3月上旬・中旬は雪の日が多かったものの、おおむね少雨・積雪無く・多照で推移した。特に1月の「積雪無し」は1932年の0cm以来であった。4月の平均気温は低く、数日周期で変わって安定しなかったが、5～6月は気温は高く、6月下旬に梅雨入りし、7月は気温は低く曇りや雨の日が多かった。8～10月は高温で、8月は真夏日が22日と平年の13.6日を大きく上まわり、9～10月は晴れた日やフェーン現象の日が多かった。とくに10月の降水量は平年の半分にすぎなかった。このような状況、とりわけ暖冬および高温・酷暑が蝶の食草の生育や発生に影響したのではないかと考えている。

■ミヤマセセリ

これまで、4月20日頃から5月20日頃かけて観察されたが（日吉・日吉2000）、2007年は5月の連休になっても、比較的発生個体が多い地と考えられる三蛇山周辺でも、その姿をまったく見ることができなかった。ようやく5月7日になり、三蛇山（ミズバショウ群生地周辺）などで少数ながら採集・目撃をすることができた。しかし、その後において見ることがなかったことから、終息も早かったのではないと思われる。

2007年5月7日	輪島市上黒川町	1♂採集1頭目撃	日吉芳朗
2007年5月7日	輪島市三蛇山	2♂採集1頭目撃	日吉芳朗
2007年5月7日	輪島市美谷町	1♂採集1頭目撃	日吉芳朗
2007年5月7日	輪島市八幡山	1♂採集1頭目撃	日吉芳朗

■コムラサキ（黒色型）

6月12日、中段町堂下で新鮮な1♂を目撃したものの、その後、当地でその姿を見ることはなかった。三井町坂田では、7月4日に2頭を観察し、8月30日に1♂を採集しただけで、2007年の個体数の少なさを象徴しているようにみえる。堂下では、護岸工事のためのヤナギの伐採が進んでおり、この好ポイントの将来が懸念される。

2007年6月12日	輪島市中段町堂下	1♂目撃	日吉芳朗
2007年7月4日	輪島市三井町与呂見坂田	1♂採集1♂目撃	日吉芳朗
2007年8月30日	輪島市三井町与呂見坂田	1♂	日吉芳朗

■ツマグロヒョウモン、キタテハ

2006年まで少数ながら宝立山や中段町堂下で採集・目撃されたツマグロヒョウモンは（日吉、2007）、2007年はその姿を見ることがなかった。また、2006年にキタテハの黒化異常型が採集された中段町堂下では、護岸工事のため食草のほとんどが刈り取られ、目撃個体もわずかであった。

■ウスバシロチョウ

5月10日頃より6月10日頃にかけて、門前町西円山や別所谷町大久保などの比較的限られた地点で、安定してその姿を見ることができる（日吉・他2名、2003）。2007年は5月18日、西円山などで観察され、その後、大沢町などでかなりの数が発生したものの、6月に入ると早々と姿を消した。

2007年5月18日	輪島市門前町西円山	4♂採集1頭目撃	日吉芳朗
2007年5月22日	輪島市上黒川町	10頭以上目撃	日吉芳朗
2007年5月22日	輪島市大沢町	10頭以上目撃	日吉芳朗
2007年5月23日	輪島市上山町	5頭以上目撃	日吉芳朗
2007年5月30日	輪島市門前町西円山	3♂採集1頭目撃	日吉芳朗

■ゼフィルス類

地震による道路災害のため、オオミドリシジミやエゾミドリシジミなどのゼフィルスポイントへ行くのが難しかった。しかし、困難を押して、6月19日に鉢伏山と当日越、6月27日に宝立山と深見町一乗のポイントを訪ねたが、1頭のゼフィルスも目撃できなかった。そしてまた、その後においても観察することなく終わった。

■ヤマキマダラヒカゲ

9月1日、三蛇山のミズバショウ群生地の一隅に足を踏み入れたところ、たいへんな数のヤマキマダラヒカゲが突然に飛びたち、大乱舞をしたうえで、そのほとんどが周辺の草地へ飛び去った。輪島市の一箇所です、これだけの数を観察したのは初めてである。

2007年9月1日	輪島市三蛇山	2♀採集30頭以上目撃	日吉芳朗
-----------	--------	-------------	------

■アサギマダラのマーキング

5月下旬頃から6月上旬頃にかけて袖ヶ浜などの海岸に咲くスナビキソウに訪れるものと、7月下旬頃から8月上旬頃にかけて鉢伏山のような山地のヨツバヒヨドリに吸蜜に来る個体群がある。

海岸のアサギマダラは、5月24日に袖ヶ浜で2♂（当日、石休場町の山地でも1♂）にマークしたのを皮切りに、6月14日の9♂マークにいたるまでの22日間に、75♂1♀にマー

クをすることができた。マーク数の最も多かった日は、6月6日の11♂1♀であり、この♀はスナビキソウで吸蜜していた。この地にかかわる再捕獲は、以下の3件で、石川県外の個体が関係する再捕獲はなかった。

6月2日 珠洲市大崎、松井正人放蝶 → 6月6日 輪島市袖ヶ浜、日吉芳朗再捕獲

6月5日 輪島市袖ヶ浜、日吉芳朗放蝶 → 6月7日 珠洲市寺家、赤石大輔再捕獲

6月13日 珠洲市狼煙、赤石大輔放蝶 → 6月14日 輪島市袖ヶ浜、日吉芳朗再捕獲

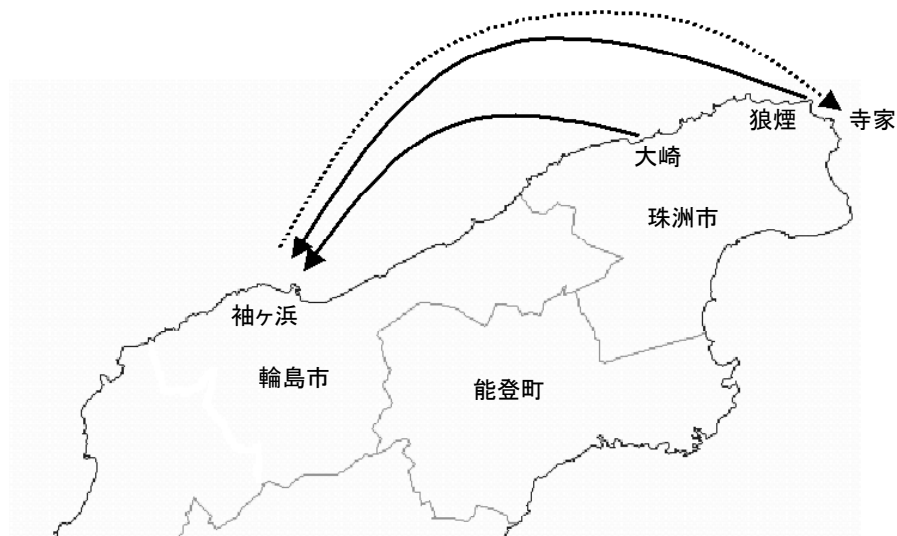


図1. 2007年に輪島市の海岸で観察されたアサギマダラの再捕獲

山地のアサギマダラは、鉢伏山・高洲山周辺にほとんど姿をみせず、7月31日に鉢伏山で1頭目撃、8月6日に同地で1♂にマークし2頭を目撃したのみであった。

■その他

近年、輪島市で減少していると思われる種の2007年の採集・目撃記録を紹介する。

キマダラセセリ	2007年7月29日	輪島市鉢伏山	1♂	日吉芳朗
ゴマダラチョウ	2007年8月15日	輪島市河井町14部	1♂目撃	日吉芳朗
ゴイシシジミ	2007年9月2日	輪島市三蛇山	1♀	日吉芳朗
ウラギンシジミ	2007年9月18日	輪島市鳳至町鳳来山公園	1♀目撃	日吉芳朗
オオヒカゲ	2007年7月13日	輪島市三井町与呂見坂田	1頭目撃	日吉芳朗

《参考文献》

- 日吉芳朗（2007）石川県輪島市での2006年の蝶の採集・観察記録から．翔（187）：4－6.
 日吉芳朗・日吉南賀子（2000）輪島市でのミヤマセセリとホソバセセリの記録．翔（144）：2－4.
 日吉芳朗・日吉南賀子・日吉宏朗（2003）石川県輪島市での2002年の蝶採集記録から．翔（163）：1－2.

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

2007年石川県のムラサキツバメ調査

松 井 正 人

ムラサキツバメは、石川県では2005年に初めてマテバシイからの発生が観察され（松井、2006）、翌2006年にも発生が観察されている（松井、2007）。連年の発生から定着の可能性が高いと考えられ、2007年は第1化の発生から観察できないものかと、これまでに発生が観察された場所を中心に、5月中旬から幼虫の食痕調査を行った。しかし、9月に至るまでの調査では幼虫の食痕は観察できず、石川県内では2007年にムラサキツバメは発生しなかったと思われる。

■調査時期と場所

調査は、5月中旬から9月にかけて行った。マテバシイの新葉が大きく展開するのは、5月中旬からで、2005年は8月6日に初観察、2006年は8月15日に初観察しているので、遅くとも9月までには、観察できると思われた。

調査場所は、主に2005年と2006年に発生した場所とし、公園や街路に植えられたマテバシイの新葉や土用芽、ひこばえで食痕を探した。

表－1. 調査地と調査日

場 所	マテバシイ	5月	6月	7月	8月	9月
中能登町運動公園	27本				18日	
羽咋市千里浜街路	多数	20日	30日		26日	
押水総合運動公園	55本					23日
内灘町内灘霊園街路	59本					21日
金沢市八田競馬場緑地	7本	13日、26日	23日	7日、21日		21日
金沢市袋島西部緑地公園	多数					25日
白山市大国町街路	多数					2日

羽咋市千里浜、金沢市袋島、白山市大国町は2005年の発生地、内灘町内灘霊園、金沢市八田競馬場は2006年の発生地である。八田競馬場は、自宅から近いこともあり、5月から9月にかけて6回の調査を行った。5月13日は、新葉がようやく小さく展開し、以後、いずれの調査地においても新葉は展開していたが、幼虫の食痕は観察できなかった。

《 参考文献 》

松井正人（2006）石川県で発生したムラサキツバメ．翔(178):3-9.

松井正人（2007）2006年石川県のムラサキツバメ．翔(184):5-9.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

スジアカクマゼミの一斉羽化

松 井 正 人

スジアカクマゼミの一斉羽化と思われる状況を、2007年に金沢市大場町の堤公園で観察したので報告する。

本種は、朝鮮半島から中国、台湾、インドシナ半島北部に生息し、日本国内では現時点で金沢市のみから知られ、外来種とされている（日本生態学会編、2002）。侵入時やその経路は不明で、1993年には既に鳴いていたことがわかっている（徳本他、2002）。

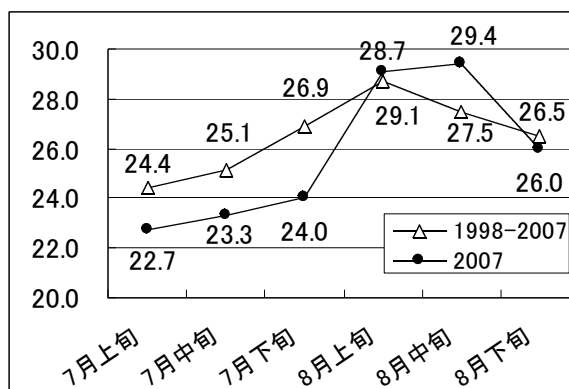
これまでの観察では、羽化は7月上旬から始まる（松井、2006）と思われるが、2007年は7月の気温が例年と比べて2～3度低かったことから、羽化時期が7月末までずれ込み、7月の下旬から下旬にかけて羽化する個体が、7月末に一斉に羽化したと思われる。

抜殻の調査は6月30日から始め、7月22日によやくひとつの抜殻が見付き、7月28日と8月1日には多数が見付かった。7月28日には、交互に立ち並ぶシダレヤナギ6本とハンノキ3本からと、その周囲に落下していた抜殻を見付け、8月1日には、7月28日の同じ場所の端からシダレヤナギ、ハンノキ、シダレヤナギの計3本とその周辺に落下していた抜殻である。シダレヤナギの枝は風に良くなびき、強い風が吹くと抜殻は簡単に落下するものと思われる。

スジアカクマゼミの抜殻数(2007年)

調査日	♂	♀	計
6月30日	0	0	0
7月7日	0	0	0
7月21日	0	0	0
7月22日	1	0	1
7月25日	1	0	1
7月28日	49	34	83
8月1日	47	40	87

金沢市の旬別平均気温



7月28日に観察した抜殻は、9本の木で3日間に行われた羽化の結果と思われ、平均すると1本1日当たり3.1個体が羽化したことになる。しかし、抜殻のほとんどは8月1日に調査した端から3本及びその周辺から見付かっている。8月1日の調査結果は、3本の木で4日間に行われた羽化数と思われ、平均すると1本1日当たり7.3個体が羽化したことになる。

2007年の平均気温を過去10年間の平均気温と旬別に比べると、2007年7月は、上、中、下旬ともに例年より2度から3度ほど低く推移し、8月上旬になって例年並みになった。このことから、7月末に羽化が集中したのではないと思われる。

それにしても、狭い範囲に鈴なりになっている抜殻は異常であり、今後、日本の在来生物の存在を脅かすことに成らねば良いと願っている。



7月28日の9本の調査木、右から3本が8月1日の調査木



上の写真の右から2本目のハンノキを下から見上げた様子(8月1日)

《 参考文献 》

- 松井正人 (2006) 2006年石川県金沢市におけるスジアカクマゼミの現状. 翔(182):2-4.
日本生態学会編 (2002) 外来種リスト (昆虫類). 外来種ハンドブック: 306-312.
徳本 洋・他4名 (2002) 日本で発見されたスジアカクマゼミ. CICADA 16(4):57-66.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県で確認されたハウチワウンカ

江口元章

ハウチワウンカ(*Trypetimorpha japonica* ISHIHARA, 1954)は、レッドデータブック(環境省編、2006)に準絶滅危惧種として掲載されている。これまでに、石川県での分布の報告がないと思われるのでここに報告したい。

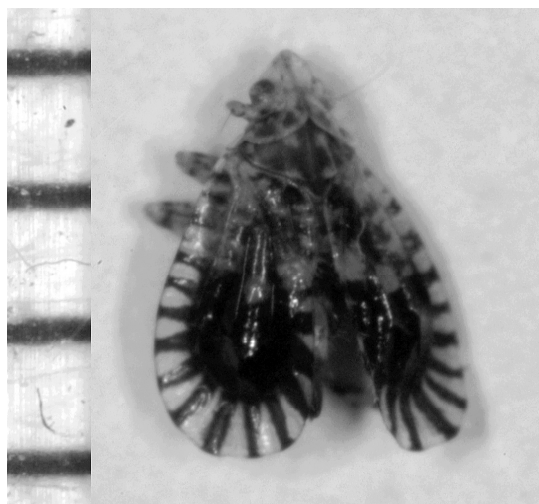
■採集確認記録

1994年9月21日	石川県羽咋郡志賀町福浦	1♀	江口元章
1997年9月25日	石川県羽咋郡志賀町赤住	目撃	江口元章
1997年9月25日	石川県羽咋郡志賀町五里峠	目撃	江口元章
2007年9月29日	石川県羽咋郡志賀町五里峠	3♂3♀	江口元章

■生息環境について

ハウチワウンカは、低地の湿地周辺のチガヤに生息する(環境省編、2006)と記されている。

しかし今回の発見地はこの記述とは異なる。五里峠の採集地点は、丘陵地帯の尾根筋に広がるアカマツ・コナラ林で、ところどころにある赤土のむき出しになった裸地がみられるような環境である。ハウチワウンカは、森林と赤土裸地との境界、林縁部のイネ科草本群落をスーピングすることにより獲られた。個体数が非常に少なく、実際にどの植物に止まっ



志賀町五里峠 2007年9月29日採集

ていたかは確認できなかったが、少なくともこれまで報告のあるチガヤは生えていなかった。今のところ一番可能性の高いのは、ミヤマアブラススキであるが、今後確認したい。また、今後こうした環境を探せば、さらに生息地が確認できる可能性がある。

最後に、志賀町福浦の標本をもとに写真同定していただいた埼玉大学の林正美先生と、ミヤマアブラススキを写真同定していただいた金沢市の白井伸和氏に、感謝お礼申し上げます。

《参考文献》

環境省編(2006)ハウチワウンカ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫類: 169.

《えぐち もとあき 〒480-0103 愛知県丹羽郡扶桑町柏森西屋敷201》

石川県産トゲナナフシ成虫の体長

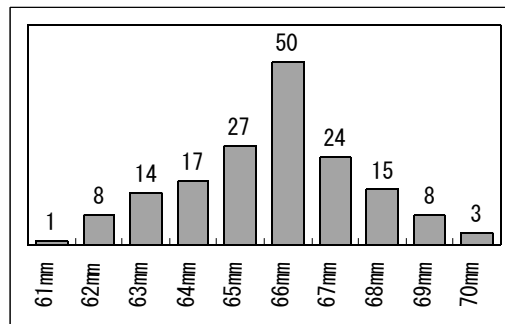
松 井 正 人

トゲナナフシは、野外では♀しか観察されず、♀成虫の体長は、57～75mm（岡田、1992）とされている。石川県産トゲナナフシの体長測定を、2006年10月1日から同年12月23日にかけて167個体で行ったところ、体長は61～70mmで、66mmの個体が50個体と最も多かった。

観察地別計測数

観察地	計測数
金沢市卯辰山	156
小松市おびし	1
小松市小山田	2
小松市上荒屋	1
小松市馬場	1
加賀市直下	6

体長別個体数



《 参考文献 》

岡田正哉（1992）トゲナナフシ，検索入門セミ・バッタ：138, 140.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2007年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額（円）	項 目	金額（円）
2007年度会費	88,000	会誌作成費	159,600
当該年度以外会費	12,000	例会費	16,000
会誌売上金	18,500	石川県自然史センター会費	3,000
郵送負担金	16,000	郵送費	25,380
寄付金	800	消耗品費	0
前年度繰越金	211,867	次年度繰越金	143,187
計	347,167	計	347,167

年会費は2,000円、郵送負担金は500円

会員の動き・しゃばの動き

■冬は沖縄に限る

12月中旬、薄暗い北陸から抜け出して、単身沖縄へ向かった細沼氏、ルリウラナミのキラメキや、飛び交うジャコウ、ツマベニ、リュウキュウアサギに南国を堪能。北陸に住む身にとって、この時期の明るく暖かな日差しは、なんといっても宝物。

■クロマダラソテツジミが各地で発生

かつてのキヤムラシジミと同じくソテツを食べ、沖縄での大発生が報告されていた。ところが、急に九州や大阪での発生が観察されだしたが、いったいどのような経緯で発生に至ったのだろうか。

■ナガサキアゲハの北上は

石川県にツマグロヒョウモンが定着して10年が経過したが、ナガサキアゲハは依然として福井嶺南地方で足踏みしている。太平洋側では千葉に達し、茨城でも記録が始めている。直近10年の年平均気温を比べると、小浜14.9度、福井14.9度、小松14.6度、金沢15.1度となぜか金沢が暖かく、最低月平均でも、小浜3.4度、金沢3.6度と金沢が暖かい。

■夢の台湾・紅頭嶼ツアー

3月から小松空港に台湾便が就航する。キシタアゲハやアケボノアゲハ、少年の頃からのあこがれの地で有りながら、未だに訪れたことが無い台湾。コウトウキシタが飛ぶ紅頭嶼では、日本発のアサギマダラが2頭も採集されている。木曜発の3泊4日か、それとも日曜発の4泊5日が良いのか。企画は細沼氏にお願いしよう。

■蝶研フィールドが廃刊

1986年4月1日の1号から、日本のチョウだけの専門月刊誌として発行されてきた「蝶研フィールド」は、2008年1月1日発行の256・260合併号で廃刊となった。「インセクトリウム」も2000年に廃刊となり、昆虫の月刊誌は「昆虫と自然」と「月刊むし」の2誌だけになってしまった。

■1月18日新年会

金沢駅前「かじ亭」で「石川むしの会」と合同開催。今年の抱負など大好きな虫の話に花が咲き、就職が決まっためでたい話も飛びだした。参加者は13人。

■とっくりばち75号発行

石川むしの会の会誌「とっくりばち」は、近年になって急速に充実してきた。2006年には、50周年記念号として81ページからなる堂々の74号を出し、今年の75号は盛りだくさんの61ページとなっている。

■私をオサ掘りに連れてって

井村会長や細沼名人が常々のたまうところのオサムシ。崖を掘ったり朽木を崩すとポロポロ出てくる。十分に大きく、魅惑の輝きを放つ。例会の度に聞かされりゃ、長田氏じゃ無くても、食いついてしまう。

■トゲナナは少なかった

トゲナナ狂いの松井氏、12月の調査回数は11回を数え、1月に入っても調査が続けたが、最終観察は12月23日。今期も前期と同じ暖冬なのに、前期の最終観察は1月30日と聞いているので、今期は少なかったのでしょうか。

■コムラサキが少ない？

今年も幼虫を求めて、奥能登各地に出発している細沼氏だが、どこへ行っても数が少ない。毎年のおなじみポイントで見つからないのは、少なくなったからなのか。

■命名権

宮崎県の東国原知事は、県庁舎の命名権を売り出すと発表した。財政難に悩む自治体では、野球場や文化ホールなどの施設に、スポンサー名など好きな名前がつけられる命名権の販売が行われている。方やアメリカでは、メキシコのフクロチョウの命名権がインターネットのオークションにかけられ、436万円で落札された。

■渡りチョウを調べる会

昨年8月に誕生した「渡りチョウを調べる会（代表：宮武頼夫）」から、ニュースレター1号が出た。今後は、この会が日本鱗翅学会の委託を受けて、アサギマダラ関係のイベント、情報交換、意見交換等の活

動を行う予定。ニュースレターは、メールでPDFが配信され、メールを使えない人にはプリントアウトが郵送される。

■ 例 会 の 記 録 ■

12月13日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

石川県にカシノナガキクイムシが侵入して数年、2006年には医王山も含め、県下のミズナラ、コナラは大被害を受けたが、これらを食樹としているゼフについて、調べられているのか。蝶談会は、状況を発信しなければならないのではないか。井村会長からきついひと言が発せられた。

これに対し、簡単お手軽ポイントのスポセン前はアカシジミすら観察できない、アイノ天の川ポイントは無惨、なぜかうらくろが少なかった、などなど。

参加は、井村、細沼、浅野、浅地、勝海、松井、大脇、長田の8人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

日吉芳朗：石川県輪島市での2007年の蝶の採集・観察記録から	1
松井正人：2007年石川県のムラサキツバメ調査	4
松井正人：スジアカクマゼミの一斉羽化	5
江口元章：石川県で確認されたハウチワウナカ	7
松井正人：石川県産トゲナナフシ成虫の体長	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔 190号

Tobu 2008年2月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所



撮影/松井 正人

撮影/小幡 英典

